

C-11 乳児の頭部形態の被服構成学的特性

み茶の水女大家政 柳沢澄子 ○天野節子 三田村陽子

目的および方法：乳児帽設計のための基礎資料を得ることを目的として、1973年に、1か月から12か月までの乳児合計554例（男児305例，女児249例）を対象として、頭部5項目（頭囲，下顎囲，右耳珠突→外後頭隆起突→左耳珠突，右耳珠突→頭頂突→左耳珠突，外後頭隆起突→眉間突）の計測を行った。これらの計測値を用い，2か月ごとに一括して5項目の統計処理を行い，まず乳児の頭部の成長様相を概観した。次に基本的項目として頭囲を選び，頭囲の月令群ごとの度数分布に基づいて乳児帽の基準寸法の設定を試みた。

結果：1) 頭部5項目の成長は，いずれも3，4か月までが急速であり，その後は緩慢となる。しかしその成長速度は部位により差異がみられる。すなわち，乳児期初期において後頭部・頭頂部がすでにかなりの成長を遂げているが，側頭部・前頭部の成長は前者より遅れるようである。また下顎部は乳児期においては未発達であるといえる。

2) 乳児帽のサイズ設定として，頭囲を基準として3cmピッチで38cmから50cmまで5サイズをとりあげ，サイズ呼称とその適用月令を設定するとともに，頭囲より他の項目を推定し基準寸法の設定を試みた。